



平成22年10月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成22年8月30日

上場会社名 アイ・ケイ・ケイ株式会社 上場取引所 JQ
 コード番号 2198 URL <http://www.ikk-grp.jp/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)金子 和斗志
 問合せ先責任者 (役職名)取締役管理本部長 (氏名)登田 朗 TEL 050(3539)1122
 四半期報告書提出予定日 平成22年9月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年10月期第3四半期の連結業績(平成21年11月1日～平成22年7月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年10月期第3四半期	9,465	—	1,500	—	1,421	—	754	—
21年10月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
22年10月期第3四半期	227.81	227.77
21年10月期第3四半期	—	—

(注) 当社は、第3四半期の業績開示を当連結会計年度より行っているため、平成21年10月期第3四半期の数値の記載および前年同四半期との対比は行っていません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
22年10月期第3四半期	13,109	4,927	37.6	1,331.90
21年10月期	12,353	3,685	29.8	111,684.64

(参考) 自己資本 22年10月期第3四半期 4,927百万円 21年10月期 3,685百万円

(注) 平成21年10月期の1株当たり純資産につきましては、平成22年1月28日付の株式分割を考慮していません。詳しくは、次ページ「業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項」をご覧ください。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
21年10月期	—	0.00	—	0.00	0.00
22年10月期	—	0.00	—	—	—
22年10月期(予想)	—	—	—	23.50	23.50

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 : 無

3. 平成22年10月期の連結業績予想(平成21年11月1日～平成22年10月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,645	24.6	1,725	96.9	1,627	101.8	873	125.5	254.54

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 : 有

4. その他（詳細は、【添付資料】P. 4「2. その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無

新規 一社（社名） 除外 一社（社名）

（注） 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

（注） 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 無

② ①以外の変更 : 無

（注） 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

22年10月期3Q	3,699,500株	21年10月期	32,995株
22年10月期3Q	一株	21年10月期	一株
22年10月期3Q	3,314,152株	21年10月期3Q	一株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

（注） 1 当社は、平成22年1月28日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。

2 当社は、第3四半期の業績開示を当連結会計年度より行っているため、平成21年10月期第3四半期の期中平均株式数については記載しておりません。

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続を実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

・株式分割に伴う1株当たり数値の遡及修正

当社は、平成22年1月28日付で普通株式1株につき100株の株式分割を行っております。当該株式分割が前期首に行われたと仮定した場合における平成21年10月期の1株当たり純資産は以下のとおりであります。

	1株当たり純資産
	円 銭
21年10月期	1,116.85

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	9
(5) セグメント情報	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益の改善や個人消費の持ち直しなど一部で景気回復の動きがみられたものの、雇用情勢の悪化やデフレの長期化等の影響により引き続き先行きが不透明な状況で推移しております。

ウェディング業界におきましては、ゲストハウス・ウェディングの需要が好調に推移している一方で、専門式場やホテルのリニューアル、価格競争の激化など、業界における競合状況は一段と厳しさが増しております。

こうした状況のもと、当社グループは社内外での研修を通じた営業力の強化やサービスの質の向上、営業施策の見直しと改善、自社開発の営業支援システムの運用による業績管理の強化等に取り組んでまいりました結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は9,465百万円、営業利益は1,500百万円、経常利益は1,421百万円、四半期純利益は754百万円となりました。

なお、事業部門別の業績は次のとおりであります。

① 婚礼事業

婚礼事業では、前連結会計年度にオープンした「ララシャンスイワキ」（いわき支店）、「ララシャンズ迎賓館」（高知支店）および「ララシャンズベルアミー」（福井支店）の稼動に加え、既存店が順調に推移したことにより、売上高は9,218百万円、営業利益は1,491百万円となりました。

② その他事業

葬儀事業では、売上高は246百万円、営業利益は8百万円となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

総資産は、前連結会計年度末に比べ755百万円増加し、13,109百万円となりました。これは主に、現金及び預金が1,297百万円増加し、減価償却等により有形固定資産が444百万円減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ486百万円減少し、8,182百万円となりました。これは主に、前連結会計年度末に計上していた福井支店の出店に伴う未払金の支払い等により、その他に含めた未払金が512百万円減少した他、有利子負債が320百万円減少し、未払法人税等が465百万円増加したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ1,242百万円増加し、4,927百万円となりました。これは上場に伴う株式の発行により資本金および資本剰余金がそれぞれ243百万円増加し、利益剰余金が754百万円増加したことによるものであります。また、自己資本比率は、前連結会計年度末に比べ7.8ポイント上昇し37.6%となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ1,297百万円増加し、3,188百万円となりました。当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は1,858百万円となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益1,415百万円、減価償却費667百万円であり、支出の主な内訳は、仕入債務の減少額144百万円、法人税等の支払額265百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は712百万円となりました。これは主に、前連結会計年度にオープンした「ララシャンスベルアミー」(福井支店)の有形固定資産の取得によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は151百万円となりました。収入の内訳は、「ララシャンスベルアミー」(福井支店)の有形固定資産の取得のための長期借入れによる収入464百万円、株式の発行による収入471百万円であり、支出の内訳は、長期借入金の返済による支出749百万円、社債の償還による支出35百万円であります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

当連結会計年度(平成22年10月期)の業績予想につきましては、婚礼事業が順調に推移していることにより、売上高、営業利益および経常利益が平成22年7月23日公表の業績予想を上回る見通しとなったため、以下のとおり修正いたします。なお、当期純利益につきましては、公募増資に伴う資本金の増加により、留保金課税の発生等、法人税等の増加を見込んでいるため修正を行っておりません。

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 11,940	百万円 1,651	百万円 1,525	百万円 873	円 銭 254.54
今回修正予想(B)	12,645	1,725	1,627	873	254.54
増減額(B-A)	705	73	101	—	—
増減率(%)	5.9	4.5	6.7	—	—
前期実績	10,148	876	806	387	(注) 117.46

(注) 1株当たり当期純利益の前期実績につきましては、平成22年1月28日付の株式分割が前期首に行われたと仮定し遡及修正を行った場合の数値であります。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

①簡便な会計処理

1) 一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

2) 繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期 連結会計期間末 (平成22年7月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,188,085	1,890,540
売掛金	162,708	179,052
商品	76,975	93,090
原材料及び貯蔵品	57,114	86,474
その他	177,448	278,451
貸倒引当金	△5,633	△6,476
流動資産合計	3,656,700	2,521,132
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	6,883,053	7,295,893
土地	1,578,983	1,559,153
その他(純額)	367,331	418,652
有形固定資産合計	8,829,368	9,273,699
無形固定資産	90,903	91,859
投資その他の資産	532,501	467,185
固定資産合計	9,452,773	9,832,744
資産合計	13,109,473	12,353,876
負債の部		
流動負債		
買掛金	420,713	565,578
1年内償還予定の社債	70,000	70,000
1年内返済予定の長期借入金	1,170,260	997,370
未払法人税等	550,339	84,828
賞与引当金	75,854	137,420
その他	909,202	1,368,423
流動負債合計	3,196,369	3,223,620
固定負債		
社債	185,000	220,000
長期借入金	4,314,880	4,772,785
退職給付引当金	59,223	52,698
役員退職慰労引当金	190,000	174,352
ポイント引当金	43,048	38,007
負ののれん	1,287	2,575
その他	192,297	184,802
固定負債合計	4,985,736	5,445,220
負債合計	8,182,106	8,668,841

(単位：千円)

	当第3四半期 連結会計期間末 (平成22年7月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年10月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	336,568	92,896
資本剰余金	340,224	96,552
利益剰余金	4,250,575	3,495,586
株主資本合計	4,927,367	3,685,034
純資産合計	4,927,367	3,685,034
負債純資産合計	13,109,473	12,353,876

(2) 四半期連結損益計算書

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年11月1日 至平成22年7月31日)
売上高	9,465,526
売上原価	4,215,321
売上総利益	5,250,204
販売費及び一般管理費	3,749,505
営業利益	1,500,699
営業外収益	
受取利息	390
祝金受取額	3,220
負ののれん償却額	1,287
その他	9,826
営業外収益合計	14,725
営業外費用	
支払利息	60,632
その他	33,313
営業外費用合計	93,945
経常利益	1,421,478
特別利益	
貸倒引当金戻入額	1,241
特別利益合計	1,241
特別損失	
固定資産除却損	6,969
特別損失合計	6,969
税金等調整前四半期純利益	1,415,750
法人税、住民税及び事業税	697,239
法人税等調整額	△36,477
法人税等合計	660,761
四半期純利益	754,988

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年11月1日 至平成22年7月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	1,415,750
減価償却費	667,758
負ののれん償却額	△1,287
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,472
賞与引当金の増減額(△は減少)	△61,565
退職給付引当金の増減額(△は減少)	6,524
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	15,648
ポイント引当金の増減額(△は減少)	5,041
固定資産除却損	6,969
受取利息及び受取配当金	△394
支払利息	60,632
シンジケートローン手数料	823
株式交付費	18,312
売上債権の増減額(△は増加)	19,526
たな卸資産の増減額(△は増加)	45,474
仕入債務の増減額(△は減少)	△144,865
その他	128,183
小計	2,181,060
利息及び配当金の受取額	394
利息の支払額	△59,714
シンジケートローン手数料の支払額	△201
法人税等の還付額	2,257
法人税等の支払額	△265,164
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,858,630
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△667,772
無形固定資産の取得による支出	△14,040
その他	△30,703
投資活動によるキャッシュ・フロー	△712,516
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入れによる収入	464,100
長期借入金の返済による支出	△749,115
社債の償還による支出	△35,000
株式の発行による収入	471,445
財務活動によるキャッシュ・フロー	151,430
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,297,545
現金及び現金同等物の期首残高	1,890,540
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,188,085

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

a. 事業の種類別セグメント情報

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年11月1日 至 平成22年7月31日)

全セグメントの売上高の合計、営業利益の合計額に占める「婚礼事業」の割合が、いずれも90%を超えているため、記載を省略しております。

b. 所在地別セグメント情報

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年11月1日 至 平成22年7月31日)

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

c. 海外売上高

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年11月1日 至 平成22年7月31日)

海外売上高がないため、該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当社は、平成22年7月23日に株式会社大阪証券取引所に上場し、上場にあたり平成22年7月22日に公募増資による払込みを受けたことから、当第3四半期連結会計期間において資本金及び資本準備金がそれぞれ243,672千円増加しております。この結果、当第3四半期連結会計期間末において資本金が336,568千円、資本剰余金が340,224千円となっております。